

開会挨拶

松田 亮三（立命館大学産業社会学部教授 / 人間科学研究所所長）

本日は年次総会の方にご参集いただきありがとうございます。この年次総会の中核になるのは、混合研究法に関する基調報告2つと、午後のパネルディスカッションになっていますが、最初に所長の方から簡単に研究所のご紹介をさせていただいて、ご挨拶にさせていただきたいと思います。

この研究所の施設は衣笠キャンパスにございまして、現在産業社会学部や法学部の先生方が、こちら大阪いばらきキャンパスの方でも総合心理学部や政策科学部などの先生方が関わり、研究プロジェクトをすすめています。

研究所の規程では、当研究所が扱うのは、「人間の身体的・精神的諸機能に関わる諸問題、発達や人格形成に関わる諸問題、社会福祉、教育、応用心理などの臨床的諸実践ならびに対人援助活動に関わる諸問題、さらには生命、倫理、権利、人権などの人間と社会に関わる諸問題についての総合的研究」となっており、非常に幅広いテーマを取り扱う学際的な研究所でございます。

研究所の具体的な活動としては、現在、3つの重点プロジェクトを進めています。「法と対人援助」それから「対人援助の学融的研究」「対人援助の人間科学（基礎・応用）」というものです。多くのチームが、それぞれのプロジェクトの中で活動しています。この詳細はちょっと申し上げませんが、webの方で詳しくは説明しております。これ以外に、萌芽的プロジェクトで新しい取り組みを支援し、この3つのテーマには必ずしもそぐわないけれども、人間科学ということでは幅広く取り組んでいけるテーマに加わっていただいているようなプロジェクトも進めています。今年度でいいますとだいたい35の研究単位が動いています（表1）。なお、文部科学省からの資金も受けて、全所的にインクルーシブな社会に向けて研究に取り組むという大きな研究プロジェクトも進めてまいりました。

あとでご報告いただく八田先生の京都大学 iPS 細胞研究所では、iPS 細胞の研究をやっているのだとものすごく分かり易いのですけれども、人間科学研究所というと何をやっているか分かりにくいところがあります。今申し上げたよ

表1 研究プロジェクト

□重点プロジェクト

✓「法と対人援助」8チーム

✓「対人援助の学融的研究」7チーム

✓「対人援助の人間科学（基礎・応用）」10チーム

□萌芽プロジェクト：6

□一般プロジェクト：14

□全所的プロジェクト：過去に実施

* 2018年度で、38の研究単位

うな非常に多様な研究を進めていますので、研究所そのもので何か1つに絞り込んだ研究をやっているというよりは、人間科学という幅広い枠の中で、さまざまな研究を多様に展開するプラットフォームとして事業を展開しているとご理解いただければ良いと思います。

こういう活動を進めるためにはある種の基盤があるということで、学術雑誌を刊行し、webによる情報発信を進め、いろいろな研究に関わる倫理上の問題の知識の収集とアップデートを行っています。それから衣笠の方には、創思館という建物で臨床心理的な研究等に取り組める各種の施設がございます。

先ほど言いましたように38もチームがあるので全体がなかなか何をやっているか分からないところがお互いにもあるということもございまして、また全所的な取り組みの報告も行うために、2012年度から年次総会を開催してきました（表2）。

「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究」を2013年度のテーマとしていますが、これは1つの大きなプロジェクトでした。それに関わって「対人支援における大学と社会実践の連携」ということも議論してきたことがあります。

今回は、「人間科学と混合研究法の未来」というテーマを掲げ、方法論を

表2 年次総会 これまでのテーマ

2012	自立支援のための持続的対人援助－地域資源としての大学の活用－
2013	インクルーシブ社会に向けた支援の<学＝実>連環型研究
2014	対人支援における大学と社会实践の連携を展望する
2015	対人支援における大学と社会实践の連携 －これまでとこれから－
2016	対人援助の新展開：理論・方法・制度の視点から 1) 犯罪からの社会復帰に必要なものを考える：法と対人援助の視点から 2) 縦断研究のこれまでとこれから：科学的根拠に基づく対人援助を目指して
2017	研究者のライフ・イベントとワーク・ライフ・バランス
2018	人間科学と混合研究法の未来

テーマにしております。いま対人サービスや福祉や臨床、心理、対人的なことが関わるところで非常に注目されています混合研究法を、研究所としてもしっかり学び取り入れていきたいし、実際にこのアプローチを用いて取り組んでおられる方々がプロジェクトを進めることにも寄与していきたいと考えております。

私の話はもうすぐ終わるのですが、今日のプログラムの簡単な説明をしておきます。まず午前中は二つの基調講演をいただきます。それぞれ我が国の混合研究法をリードされているお2人の先生に今日は来ていただきまして、まずは青山学院大学の抱井尚子先生でいらっしゃいます。お二人目は京都大学の八田太一先生。それぞれご紹介は後ほどあると思うのですが、この二つの理論と実践に関する講演をまず伺って勉強するというのが第1部です。

第2部は、恒例になっていますが、研究所の諸活動を交流する場所としてポスターセッションを設定しております。お手元に抄録集があると思います。そちらはこの横の部屋で行いますが、軽食を食べながら発表・交流しながら議論していただくネットワーキングの場所にも使っていただくために設定しております。これはちょっとゆっくり目に時間を取っておりますので、時間が余ればキャンパスの中を散策いただいても結構かもしれません。

第3部は、第1部の基調講演を受けつつ、現在我々のプロジェクトで取り組んでいらっしゃる3人の先生方からそれぞれの研究を踏まえて、この混合研究方法ということはどう考えていくのかとか、人間科学としての研究は今後どんなことを考えていったらいいのかとか、そういうことを話題提供していただきながら、フロアも含めて議論していただくということで予定しております。

以上が今日のプログラムの説明ということになります。なお、本会の第1部と第3部の中身は、トランスクリプトを作りましてインクルーシブ社会研究の1つの号として刊行する予定になっております。

最後にお礼ということで、今回お忙しいなか基調報告をしていただくお二人の先生にまずは感謝申し上げたいということと、それから特にコーディネートをされている本学の政策科学部の稲葉光行先生に—これからこの後かなりご活躍いただきますけれども—感謝をいたします。また、今回お忙しい中このプログラムにご参加いただいた皆さん、それからポスターで発表される皆さんにお礼申し上げます。

それでは若干予定よりも早いですけれども、以上で私のご挨拶といたします。ご清聴ありがとうございました。

